



組織的な大学院教育改革推進プログラム（旧：大学院教育改革支援プログラム）
平成 20 年度採択

「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」

平成 24 年度(春) 後期課程ガイダンス資料

奈良女子大学大学院

人間文化研究科

<2012 年 4 月版>

博士後期課程

社会生活環境学専攻

■■目次■■

■本プログラムの概要	2
■カリキュラムと授業・関連する授業一覧	3
■授業情報	4
■学習支援体制	6
■自主活動支援事業	7

組織的な大学院教育改革推進プログラム

「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」ガイダンス資料

発行 代表 出田和久

発行日 2012 年 4 月 3 日

作成 大学院 GP(人社系)事務局 (E154 室、0742-20-3523)



■本プログラムの概要■

本プログラムは「大学院教育振興施策要綱」（平成 18 年 3 月 30 日）の策定をうけてはじまった「組織的な大学院教育改革支援プログラム（旧名称：大学院教育改革支援プログラム）」として平成 20 年度に採択され、平成 23 年度より、学内措置で継続しているものです。

このプログラムでは、特に高度専門職業人の養成を念頭に、主として博士前期課程の教育の実質化を図るため、従来の教育カリキュラムの実習・実践的な側面を強化して、大学院生の皆さんのキャリア形成を支援します。

●基本的な特徴●

歴史的に培われた本学の総合力を生かし、社会・文化・人間・環境・生活に関する専門的教育研究に加え、実習・実践的な側面を強化したカリキュラムを編成しています。

各専門領域で「実践基礎群」・「実践応用群」科目を展開し、従来の演習科目に加え調査やフィールドワークを基礎に、情報処理・分析や制作、企画・マネジメント、表現・プレゼンテーション等の能力、およびそれらを発信するコミュニケーション能力などを養成します。

●イニシアティブ事業の継承●

高度な専門的知識を提供する現在の専門基礎、専門応用の 2 つの科目群についても各々の授業の改善を図ります。また、主として研究者養成を念頭に置いた「魅力ある大学院教育」イニシアティブ「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」事業（平成 17 年度採択）を、高度な専門的能力の育成を図る方向で継承し、マネジメント能力を養成する研究マネジメント群科目や自覚的にキャリア形成を図るためのキャリア形成群科目を・充実させています。

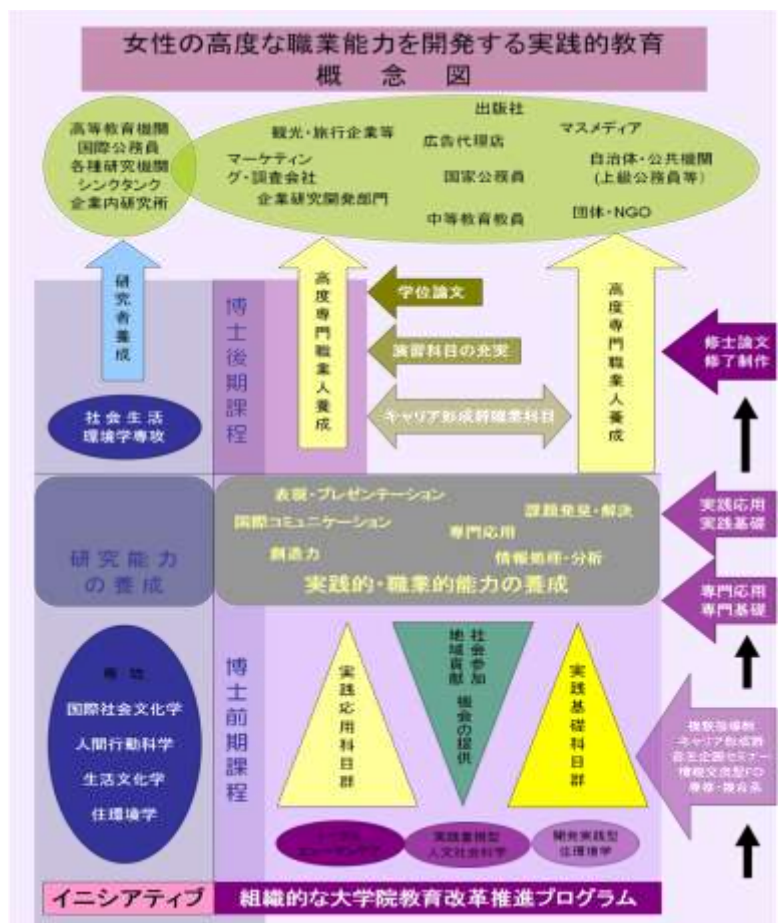
●評価方法の改善●

この学習・研究の展開から従来の修士論文とは異なるタイプの成果が出てきた場合、それを修了研究の一部、あるいはそれに替わるものとして認め、修了認定における評価対象とします。

●学生自主活動支援事業●

院生が主催する研究会やセミナーの開催、また研究成果の公開について支援します。自主的な研究会・セミナーなどの企画と運営に参加する機会を設けることによって、生きた能力を身に着けることをめざします。各種の授業や機会を系統的に活用することで、着想と提案の意欲と能力を備え、実践型の企画・マネジメント能力等に秀でる女性を社会に送り出します。

また学生の研究発表会への参加について、学生個人の口頭発表を経済的に支援します。



■カリキュラムと授業■

●科目群とは

本研究科は、前期・後期両課程を通して、男女共同参画社会をリードする研究者および高度専門職業人の養成を目的として掲げています。このプログラムに参加する5専攻のカリキュラムは、この目的を達成するために下記のような科目群を設定し、キャリア形成を念頭においた科目選択を支援しています。

○研究マネジメント群およびキャリア形成群○

研究者あるいは高度専門職業人としての研究推進とキャリア形成に役立つ授業群です。2009年度以降の入学者は二つの群から計2単位以上を、2008年度以前の入学者はそれぞれから1単位以上を、選んで受講してください。

○専門基礎科目群・専門応用科目群○

各専攻において大学院修了者にふさわしい一般的能力の養成をめざす授業群です。

○実践基礎科目群・実践応用科目群○

高度専門職業人としてのキャリア形成のために、実践的に役立つスキルの修得をめざして開設された授業群です。

博士後期課程修了必要単位数			
研究マネジメント群	合計2単位以上	合計10単位以上	合計14単位以上
キャリア形成群			
専門基礎群	合計8単位以上		
専門応用群			
実践基礎群			
実践応用群			
論文等作成	2単位		

注意：インターンシップ専門実習、および専門・実践の4科目群の各科目を専攻を越えて履修する場合、指導教員および授業担当教員にご相談ください。

●その他履修の仕方

*学部授業の受講について

学部のキャリア形成科目（教職科目も含まれます）、および本プログラムの博士前期課程科目は、受講制限を超えて履修できます（修了要件単位にはなりません）。必要なものを計画的に履修してください。

*カリキュラムや受講についての相談

社会人としての制約による必修授業の受講方法その他履修の仕方について、指導教員、授業担当教員等にもご相談ください。

■関連する授業一覧■

●24年度開講 キャリア形成群●

研究マネジメント群	研究交流英語	後期		松岡悦子
	研究プロジェクト演習	不定期		藤原素子
	研究プロポーザル演習	後期	不定期	中山満子 井上容子 栗岡幹英
キャリア形成群	グローバル社会と女性の専門性	前期	集中	成瀬九美 高田将志
	インストラクション法実習	不定期	集中	井上洋一

●専門群、実践群●

専門群、実践群についてはシラバスかCAMPUS LIFEをご覧ください。また前期課程の科目群についてもそちらをご参考ください。

■ 授業情報 ■

初回ガイダンス等の案内です。よく読んで、間違えないようにしてください。

このほかの授業に関しては、シラバスまたは掲示板で確認するか、担当教員へ直接確認してください。

研究プロジェクト演習	
担当	藤原素子
開講計画など	不定期
初回ガイダンス	4月12日(木) 3・4限 N119室
連絡先	藤原素子 motoko@cc.nara-wu.ac.jp 電話:0742-20-3349
連絡事項	2回目以降の授業日・教室については、初回のガイダンス時にアナウンスします。
その他特記事項	受講登録は必ず前期に行ってください。初回のガイダンスに出席できない場合は、必ず前もってメールで連絡してください。

グローバル社会と女性の専門性	
担当	成瀬九美・高田将志
開講計画など	<p>★集中</p> <p>9月14日(金) 10:00~16:00 ゲストスピーカー: 筒井由起乃先生(追手門学院大学国際教養学部アジア学科)</p> <p>9月15日(土) 10:00~16:00 ゲストスピーカー: 亀山恵理子先生(奈良県立大学地域創造学部地域総合学科)</p> <p>・筒井先生はベトナム研究、亀山先生はインドネシア研究の専門家で、留学や現地調査の御経験を豊富にお持ちです。</p> <p>・ゲストスピーカーの先生方のご都合により、日程の追加・変更の可能性があります。追って連絡します。</p>
初回ガイダンス	下記「連絡事項」をご覧ください
連絡先	高田将志 takada@cc.nara-wu.ac.jp
連絡事項	受講希望者は必ず事前に授業担当者まで電子メールで連絡の上、履修登録を済ませてください。成績評価は、授業外レポートおよび授業参加に基づいて総合的に行います。ガイダンスおよび開講日時・教室のお知らせは電子メールにて行います。
その他特記事項	

—— (参考) 博士前期課程科目 ——

2012 (H24) 年度大学院GP関連科目開講計画表

群	科目名称	開講期	時間割	担当者	備考
キャリア形成群	専門応用英語	前期	集中	佐野敏行	
	専門応用英語	後期	不定期	松岡悦子	
	プレゼンテーション演習	前期	火7・8	鍛冶幹雄	
	プレゼンテーション演習	後期	火7・8	鍛冶幹雄	
	女性専門職キャリア論	前期	集中	星野聡子 安藤香織 栗岡幹英	
	インターンシップ実習	前期	金7・8	鍛冶幹雄	企業訪問は不定期
	インターンシップ専門実習	不定期	集中	麻生武 本山方子	クラス分け開講 (人間行動)
	インターンシップ専門実習	前期	不定期	出田和久	クラス分け開講 (国際社会/奈文研提携)
	インターンシップ専門実習	前期	集中	松岡悦子	クラス分け開講 (生活文化)

2012 (H24) 年度博士前期課程各専攻開講計画表

専攻及び講座	授業科目	科目群	開講期	時間割	担当者
国際社会文化専攻	地域環境調査法	実践基礎	不定期	不定期	高田将志 帯谷博明
	GIS分析演習	実践基礎	後期	金3・4	石崎研二
	地域・文化コンテンツ制作実習A	実践応用	後期	金5・6	寺岡伸悟
	地域・文化コンテンツ制作実習B	実践応用	後期	火9・10	武藤康弘
	実践スキルゼミナール (社会調査)	実践基礎	前期	集中	<中田奈月>
人間行動科学専攻	臨床心理査定演習	実践基礎	前期	月3・4	真栄城輝明
	人体機能計測実習	実践応用	後期	集中	藤原素子
	実践スキルゼミナール (スポーツ科学)	実践基礎	前期	水7・8	<本多克己>
	スポーツビジネスリアル演習	実践応用	後期	月7・8	甲斐健人
生活文化	企業文化論	実践応用	前期	火1・2	<住原則也>
住環境学専攻	フィールドサーベイ	実践基礎	前後期	集中	中山徹 山本直彦
	住環境設計特論	実践応用	後期	集中	<城戸崎和佐>

* < > は非常勤講師

—— (参考) 博士前期課程科目 ——

- 研究マネジメント群およびキャリア形成群 -

専門応用英語	
担当	佐野敏行
開講計画など	集中
初回ガイダンス	4月11日(木) 12:15~12:50 図書館グループ学習室
連絡先	佐野敏行 tsano@cc.nara-wu.ac.jp
連絡事項	初回内容 ・履修の仕方。英語による自己紹介。
その他特記事項	

プレゼンテーション演習	
担当	鍛冶幹雄
開講計画など	前期後半、後期後半: 火曜日7・8時限 <前期開講> 6月12日(火)から約6回予定 <後期開講> 11月27日(火)から約6回予定
初回ガイダンス	4月10日(火) 14:40から約1時間 E107
連絡先	鍛冶幹雄 mikio-kaji@cc.nara-wu.ac.jp 電話: 20-3781
連絡事項	学部卒論テーマや専門研究テーマなど15-20分/人程度(質疑応答含む)で2回程度の発表を経験する。受講者は自身の発表とともに他の人の発表の討議に教員とともに参加する。自身の考えを論理的に伝えることや、他の人の発表の良否を身近に見聞きすることにより、プレゼンテーションの極意を実践的に会得する。原則/パワーポイントで発表。タイムキーパーなど役割も分担する。また、受講人数により、前期・後期への振り分けを行う。(秋季入学者については別途対応する)詳細は、初回のガイダンスで説明するので出席のこと。
その他特記事項	後期に受講する予定の学生も、初回(4月10日)のガイダンスで説明するので出席のこと。

女性専門職キャリア論	
担当	星野聡子・安藤香織・栗岡幹英
開講計画など	★集中 第1回目 5月26日(土) 10:00~ (3コマ) ゲスト 富士常葉大学総合経営学部 准教授 大久保あかね氏(本学旧体育学専攻卒業生) 第2回目 6月2日(土) 10:30~(2コマ) ゲスト 大阪大学未来戦略機構超域イノベーション博士課程プログラム部門 特任助教 伊藤ゆかり氏 第3回目 6月23日(土) 10:30~(2.5コマ) ゲスト 「くらすば」主宰 一級建築士 吉橋久美子氏(本学旧住居学科卒業生)
初回ガイダンス	5月26日(土) 10:00~ N302
連絡先	星野聡子 satoko@cc.nara-wu.ac.jp 研究室E156
連絡事項	3回の授業をすべて受講することをもって評価の対象とします。
その他特記事項	

インターンシップ実習	
担当	鍛冶幹雄
開講計画など	前期 金曜日午後または水曜日午後
初回ガイダンス	4月13日(金) 14:40~16:10(7・8限) E107
連絡先	鍛冶幹雄 mikio-kaji@cc.nara-wu.ac.jp 電話: 20-3781
連絡事項	広く様々な職場を訪問し、見学・質疑応答などにより、自身の将来のキャリアにつき考えさせる。専門分野に限らず視野を広げるとともに大学での研究が社会でどのように活かされているか実感させる。また女性がどのように活躍しているかにも焦点をあてる。今年度は15箇所程度の企業などの訪問(一部は講義形式)を予定している。必要回数の出席とレポート提出により単位を与える。詳細は、初回のガイダンスで説明するので出席のこと。
その他特記事項	詳細は、初回のガイダンスで説明するので出席のこと。

■学習支援体制■

●大学院 GP（人社系）事務局

教務補佐員が常駐しています。機材・図書の貸し出し、GP 関連事業の各種受付を行います。

また発行物のバックナンバーもこちらで閲覧できます。

▶大学院 GP（人社系）事務局 新 E 棟 154 室

▶開室時間 月～金、10：00～17：00

(12：00～13：00 は休憩)

▶電話 0742-20-3523 (内線)

▶メール gp-zins@cc.nara-wu.ac.jp

▶教務補佐員 久保美知子

■機材・図書の貸し出しを行っています。

貸し出し期間は機材は 1 週間、図書は 1 カ月が基本です。

■大学院 GP(人社系)ホームページの開設

<http://www.nara-wu.ac.jp/grad-GP-life/>

プログラムの活動、院生自主企画、研究成果公開助成などの情報を公開していきます。

■メールニュースの配信

ホームページと同様に TA の募集や院生自主企画、研究成果公開助成などの情報をお届けします。

*メールニュースの配信は月 1 回（15 日頃）です。

配信をご希望の方は、タイトルに「GP メールニュース配信希望」、本文に「名前、所属、配信先メールアドレス」をご記入の上、メールにて gp-zins@cc.nara-wu.ac.jp までお送りください。次回配信分より対応させていただきます。

■ニューズレターの発行■

ホームページ、メールニュースと同様に、院生自主企画や授業報告などの情報を掲載していきます。発行は年 2 回程度の予定です。

バックナンバーは事務局で手に入れることができます。

✿貸出可能機材（4 月現在）✿

- ・ノートパソコン(A4、B5 サイズ)
- ・プロジェクター
- ・スクリーン
- ・デジタルカメラ
- ・デジタルビデオ
- ・ポータブル MD レコーダー
- ・IC レコーダー
- ・卓上ベル
- ・プレゼンテーションリモコン
- ・ストップウォッチ
- ・延長コード

* その他ご相談承ります。 *

★ポートフォリオシステム★

本人社系 GP に参加する各専攻の学生を対象にした、ポートフォリオシステムを利用することができます。詳しくは下記 URL にアクセスし、「ポートフォリオシステムの導入についてのお知らせと登録のお願い」および「登録の方法について（学生向け）」をご覧ください。

<http://groups.google.com/group/folio-narajo/>

*お問い合わせは folio-narajo@googlegroups.com までお寄せください。

■自主活動支援事業■

院生が主催する研究会やセミナーの開催、また研究成果の公開について支援を行います。
いずれも募集要項をよく確認の上、必要事項を規定の応募書式に記入して、大学院 GP(人社系)事務局に期日内に提出してください。

各募集要項は本プログラム HP よりダウンロードするか、事務局までお問い合わせください。

● 院生自主企画支援 ●

大学院生の自主活動支援プロジェクトの一環として、“キャリア形成のための院生自主企画”の支援を行います。
大学院生を企画者とするグループによる、専門職キャリア形成をテーマとした様々な自主企画を、下記の要領で募集しますので、奮ってご応募下さい。採択された企画に対しては、招聘する講師の方への謝金・旅費が支援されます。

募集期間：4月3日(金)～4月23日(月) 17:00 まで

応募条件：

- ★セミナー等の開催日が2012年5月～11月末日までの企画とする。
- ★応募は、複数名で協力して企画を実施できるグループ単位とし、各メンバーの役割分担を明記すること。(企画者1名のみでの応募は認めません)
- ★支援は、謝金、交通費、宿泊費(ただし近畿圏以外の場合について1泊分)のみが対象。その他の費用は企画者が負担すること。

企画概要書の提出方法：

応募書式(エクセルファイル：大学院 GP(人社系)事務局にお問い合わせもしくは本 GP ホームページから入手してください)に、必要事項を記入して期日内に提出してください。

提出先・問合せ：

大学院 GP(人社系)事務局 新 E 棟 E154 室に期日内に提出してください。
(印刷したものと、エクセルに入力したものを両方提出すること)

注意：

- ★1 件の企画に対する助成額の上限は概ね2万～5万円程度と考えてください。従って、複数の講演者を招聘する企画等で遠方の講演者が多数となるなど、申請予算が過大になる場合、招聘予算の減額を採択要件とするか、予算上限以内で申請された他の応募企画の採択を優先する場合があります。
すなわち、旅費が高額となる場合、謝金の支払いをなしとするなど、申請段階で助成上限を超えないような予算計画がたてられているかも、選考の判断要件とします。
- ★招聘する講師は、できるだけ近畿圏内の方でお願いします。予算総額に上限があるため、多数の応募があった場合、招聘講師の交通費・旅費の額が選考の判断要件となる可能性があります。

企画の採択の可否について：

採否については、2012年5月上旬ごろに、セミナー企画代表者への通知を予定しています。

● 研究・活動成果公開のための研究集会参加助成 ●

大学院生のキャリア形成活動支援プロジェクトの一環として、大学院生の研究・活動成果公開のための研究集会・講演会などでの発表のための応募参加登録に要する費用に対する支援を行います。下記の要領で募集しますので、奮ってご応募下さい。

募集要項（大学院 GP（人社系）事務局にお問い合わせ、もしくは大学院 GP（人社系）ホームページから入手してください）をよく読み、申請書と必要書類を揃えて大学院 GP（人社系）事務局に提出してください。

申請締め切り： 2012年4月23日(月) 17:00まで

申請書類提出先： 大学院 GP（人社系）事務局（新 E 棟 E154 室）

応募資格者：本 GP 対象 6 専攻所属の大学院生

助成対象：

2012年5月1日～2012年12月末までの間に開催される学会や学術団体主催の学術講演発表会やシンポジウム等にて、応募者が口頭講演を行う場合（ポスター発表は含まない）における参加登録費を対象とします。

助成額の上限は1名あたり1万円までとし、同一応募者による複数の発表会・シンポジウムに関する応募も認めます。

★プログラムの改善について★

本プログラムは、学生の皆さんのニーズに応えるために機動的に改善を図ります。どんな相談でもプログラム全体の改善のために役立つので、遠慮なく適当な教員、あるいは本プログラム担当の教務補佐（事務局常駐）にお伝えください。